

令和8年度に向けた改善方策

教育目標	◎友だちをたいせつにしよう ○じぶんから進んで学ぼう ○力を合わせてやりぬこう ○健康なからだをつくろう	目指す 学校像	児童にとって、学んでよかったと思える学校 教職員にとって、働いてよかったと思える学校 保護者・地域にとって、支えてよかったと思える学校
------	---	------------	---

重点目標1	重点目標	豊かな知力「探究的な学びを通し、確かな学力を育む」
	考察	児童一人一台のタブレットの学習が展開され学力の向上の大きな力となっている。今回のアンケート結果でも「わたしは学習の中でタブレットを使って調べたり、発表する際に使用したりしている」との肯定的な結果は教師の結果と同様に高い数値が出ている。しかし「わたしは自分で考えたことを話し合ったり、発表し合ったりしている」の肯定的な結果は61.1%で学習面での項目の中で最も低い。
	改善方策	○自分の考えを醸成したり、自力解決する時間を確保したりすることで、まずは「友達に伝えたい」「友達と話し合いたい」という気持ちを高める工夫を行う。 ○タブレット端末で児童同士の考えを発表し合うだけでなく、実際に児童が自分の考えを友達に話したり発表したりする時間を確保し、対面での学び合いを促進する。
重点目標2	重点目標	豊かな人間性「思いやりのある子を育てる」
	考察	児童アンケート「わたしは、自分の気持ちや友達の気持ちを理解しようと努力している」の肯定的回答が90.8%、「わたしは、友達を大切にしている」の肯定的回答も95.7%と良い結果になっているが、「わたしは、相手に話が伝わるように、話し方を工夫している」の肯定的回答が78.4%、「わたしは、自分の考えたことを話し合ったり発表しあったりしている」の肯定的回答が61.1%という結果になっている。
	改善方策	○「他の人は自分とは違う感情を持っていることを理解する」機会を、道徳や特活、異学年交流などの様々な場面で取り入れ、非認知能力特に「他者とつながる力」を高める取り組みを行う。
重点目標3	重点目標	健やかな身体「体力の向上と健康の保持増進」
	考察	「体力」に関する児童アンケート「わたしは、中休みや昼休みに体を動かしている」では肯定的回答が60.0%であった。教職員アンケート「中休みや昼休みでは、児童が外に出て体を動かすことを励行している」の肯定的回答が91.6%であることから、教職員は外遊びの声掛けはしているが、子供たちは思い思いに休み時間を過ごしているという現状がある。
	改善方策	○「短縄月間」「持久走月間」など、全校で行う取り組みを通して、全児童が運動に親しむきっかけ作りを行う。 ○体育の授業では、準備や片づけを行う時間や教師が説明する時間を効率化して、各学年の実態に応じた運動量を確保する。